

## 九州合研 50 周年記念企画:つながい大切に…「レトーク No.7

### コロナ禍の保育 ～今、保育園で～

発信：九州合研常任委員会 2022.1.25



しらゆり保育園は独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センターの院内保育所です。定員 60 名で病院職員や保育所職員、地域の子どもたちが入所しています。しらゆりの子どもたちは、近くの地域だけでなくいろんな地域から（福岡県からも）通園しています。卒園後は、半数以上の子が一人で自分の地域の小学校へ入学します。仲間と関わってたくさん遊び、保育園生活を通して自己肯定感を蓄え小学校の扉をたたきます。一人でも臆することなく、自分らしく、新しい仲間の中で生活できることを応援しています。

#### 卒園児にとっての学童保育、保育園にとっての学童さん

コロナ禍の中、昨年3月卒園した子どもたちは、緊急事態宣言で入学式が延期になりました。入学式がないまま、学校の学童保育や地域の学童保育から小学生生活が始まった子どもたち。小学校入学への思いにぽっかりと穴が開き、どうしようもない気持ちや思いでした。何人かの保護者の方から「先生、夕方卒園児の友達と保育園で会う機会をもってもいいですか」と話がありました。夕方集まった同じ境遇の子どもたちは、園庭を走り回ったりボールを蹴ったり、担任だった保育者とも会って話をしたりして、ほっとした笑顔を見せていました。短い時間でしたが友達と話をし、親には言えない思いを保育者に聞いてもらって晴れやかな顔で帰っていきました。

しらゆり保育園では、保護者の要望で病院施設とも話し合っ、小学校の長期休業中の学童保育を行ってきています。日常的には、それぞれの学校や地域の学童保育に行っていますが、保育園時代の仲間と会って一緒に過ごせるしらゆりの学童は、卒園児にとっては大事な居場所だと改めて感じました。

保育園の子どもたちにとっても、学童さんたちが夏休みで保育園に来るのは、興味津々です。図書室で、勉強したりトランプや将棋やけん玉をしたりする姿は憧れです。覗いたり、入り込んで真似してやってみたりしては、「今ここは、学童さんのお部屋だよ!」と出されたりもしています。朝夕の時間は、保育園の子どもたちとかかわる時間をもっていました。コロナ禍では、控えざるをえません。以前は女の子たちが、0歳児の子どもたちのお手伝いをするのを楽しみにしていて、赤ちゃんにとっても学童さんにとっても、保育園ならではのいい時間が作れていましたが……。

また、学童さんになったら電車に乗って干潟体験に行けると楽しみにしていましたが、2年続けて行けていません。夏休み最終日、恒例の「2学期がんばろう会」では、みんなで「アイスづくり」をして楽しい思い出のエネルギーを蓄えました。

変異株の出現でコロナ禍が続きますが、「保育園や学童保育」が子どもたちや子育てをしながら働く保護者の支えとして、これからもあり続けたいと思っています。

佐賀 しらゆり保育園 山口 邦孝

アップル学童クラブは、隣接する林檎の木保育園が母体となって運営している児童クラブです。当初は卒園児を対象に夏休みなど小学校の長期休暇期間だけ開所をしていました。現在は佐賀市からの委託を受け、放課後の日々の学童保育（16名）と長期休暇期間のみの学童の受け入れも並行して行っています。休暇期間の長い夏休みは合わせて60名程度の大所帯をスタッフ7名で保育をしています。

近年続くコロナ禍の中、いわゆる“三密”の状態になりやすい学童クラブのため、アルコール消毒などの除菌対策の徹底のほか、子どもの毎日の検温やマスク着用、手洗いの励行や室内換気の配慮などのコロナ対策をスタッフと保護者の協力により、継続して行っているところです。

## 2021年夏休みの学童クラブ

2020年の夏休みは、新型コロナの流行により夏休み期間自体が短縮され、アップル学童クラブの開所日数も少なく、従来のコロナ対策で乗り切ることができましたが、2021年は通常通り40日以上もの夏休み期間での開所となりました。学童クラブはどうしても子どもが密になりやすい環境のため、2021年の夏休みはこれまでのコロナ対策のほか、スタッフで協力し合いながら、“場の密”を避けるよう心掛けました。

当日の連絡事項や出席確認を行う「朝のお集まり」などの集合活動については、なるべく要約して時間的な短縮を行いました。メインとなる自由活動では、子どもの希望を尊重して、近くの公園まで散歩に行くか、学童クラブに残って室内遊びをするか、あるいは外遊びをするかなど、各自が自由に選択し、活動できるよう、スタッフの人員数も考慮して保育を実施しました。アイスクリーム作りなどの全体的なイベントについても、グループごとに時間を少しずらして作るなど、子ども達の共有感や一体感を損なわないよう配慮しつつ、人的、空間的な“密”にならないようにして行いました。

また、2021年の夏休み中は母屋のほか、約16坪の広さのプレハブ小屋を敷地内にレンタルで設置することができました。こちらのプレハブ小屋は内部をカーテンなどで仕切り、水遊びをする子どもたちのための男女別の更衣室や、プロジェクターを活用してアニメなどのDVDを見る「ミニ映画館」として、多目的に利用することができました。昼食時の場所についても、このプレハブ小屋と母屋、外庭のほか、時には公園もOKとし、その日の気分で子ども達が自由に選択できるようにしました。

厳しいコロナ禍の中、2021年の夏休みの学童保育について改めて振り返ってみると、コロナ対策による“密”を防ぐための工夫を行うことで、結果として子ども達の自主性を尊重しつつ、いつもより多様性のある保育を提供できたと感じています。ただし、これは近くに遊べる公園があったり、プレハブ小屋をレンタルできたりといった物的環境だけでなく、子ども達を見守るスタッフの人数を十分確保でき、しかも年間を通して継続して同じスタッフを雇用できたという恵まれた人的な環境によるところが大きかったといえます。スタッフと子ども達の間信頼関係が構築でき、様々な保育の場面で各スタッフに現場を任せられるようになったことなど、改めて、一緒に活動しているスタッフには感謝の念を伝えたいところです。コロナの影響によりまだまだ大変な状況が続きますが、これからも今ある『人財』を大切にしながら、“子ども達がじっくり遊び、仲間と楽しく学び過ごせる場所・子どもの居場所作り”を理念に学童保育を実践し、活動していきたいと思えます。

佐賀 アップル学童クラブ 江上 哲史

☆レポート、次は福岡県からです！

